

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	北札内ふれあい館2	評価実施年月日	平成21年10月10日
評価実施構成員氏名	中田千恵子 吉森美沙 山本恵 工藤みゆき 工藤美雪 大滝広子 佐藤知子 野上恵美		
記録者氏名	中田千恵子	記録年月日	平成21年10月15日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホーム内に掲示し 重要事項説明書にも記載している。		
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム内に掲示し、各々が常に意識する様になっている		
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	行事参加の呼びかけを月1回発行している お便り等で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	自治会に2ヶ月に1度 活動内容を記したお便りを発行しグループホームへの理解を深めるように努めている。	○	お便りの継続をはかり自治体行事にも積極的に参加するように努めたい。
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	回覧板を通じて町内会の行事に参加するよう心がけている。ゴミ拾い等は積極的に参加する。	○	徐々に町内会行事に参加する回数を増やすように取り組んでいきたい。
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会へのお便りに入居者様の様子などを伝え認知症に対する理解を深めてもらうように取り組んでいきたい。	○	町内会のお便りに認知症のフアンポイントアドバイスなどを取り入れていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価及び外部評価の実施の意義などを理解し評価に対する話し合いを行なった上で改善に取り組んでいる。		
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の内容は各ホームの行事他サービス内容の実際、評価の報告及び取り組み状況について報告、話し合いが行なわれ意見などは取り入れるようにして活動している。		
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア推進会議が行なわれる等、交流する機会があり連絡をとりサービスに生かすように取り組まれている。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会などに参加をし認識はしているが活用はされていない。		
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会への参加、事件報道を通じ意識するように努めている。又虐待防止にも努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に契約書を渡し読んでいただき契約時再度確認の意味で読み合わせる又疑問点はその場で理解して頂く。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
○運営に関する利用者意見の反映 13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との関わりの中で行なわれている。又家族に 伝えた不満などは家族の方から受けるようにしている		
○家族等への報告 14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月のお便りにホームでの様子、各個人の報告を 担当者より記載している又 面会時報告や 電話連絡をして常に連絡がとれる様にしている		
○運営に関する家族等意見の反映 15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族参加の行事を行ない その中で意見や 不満、思っている事などを聞いている。	○	家族参加の行事をもっと増やし、 交流を深めていきたい。
○運営に関する職員意見の反映 16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回スタッフ会議を設け 職員の意見や 提案を出せる機会にしている。		
○柔軟な対応に向けた勤務調整 17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	時間帯のシフトによる割りふりは ないが必要とされる 場合の勤務調整は臨機応変に行なっている。		
○職員の異動等による影響への配慮 18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動、離職の際、利用者への不安を防ぐため 前任者が後任者を紹介するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
○職員を育てる取り組み 19 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修参加については「順登制」としなるべく多くの職員が参加できるように対応している。また事業所内研修会も積極的に開催し身体拘束や高令者虐待等について学習している。	○	研修後は職員会議にて内容を報告するとともに研修資料等は常時閲覧可能にして各自が学習できるよう配慮している。
○同業者との交流を通じた向上 20 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の介護保険事業所等と連携を図っており地域ケア推進会議への参加を通じ交流をより活性化していくよう努力している。		
○職員のストレス軽減に向けた取り組み 21 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の親睦会は行なわれているが年2回程で外部のグループホームとの関わりも少ないため悩み相談の機会も少ない。	○	職員同士の交流を持てる機会を増やしていきたい
○向上心をもって働き続けるための取り組み 22 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個人能力を年2回評価表により把握し向上心を持って働き続けられる様に努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
○初期に築く本人との信頼関係 23 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	状況に合わせて見学に来て頂き その際に本人から不安や要望を聞かせていただいております。		
○初期に築く家族との信頼関係 24 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面接見学时 家族にも同伴して頂く際よく話を聞くようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面接時に困っている事必要としている支援を聞き 取り組んでいる、他のサービス利用については今まで必要 なかったため対応を考慮していない。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居時に本人の馴染みの物を持ってきてもらう様に している。日常使用していた茶碗など食器また生活に 慣れるまで家族の面会について等相談していつている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の個性、生活歴に添って支援している中で学びとる 場面、また支えあう関係を築くように努めている。		
28 ○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	行事への参加を通じスタッフや利用者との交流を 深めている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	電話連絡や報告相談を行い協力してもらうよう 関係を保つことに努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの入場所との関わりは薄いですが面会者の 受け入れ支援は行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	仲の悪い利用者についてはスタッフが間に入って会話を努め二人ひとりが孤立せずに暮らし支え合えるよう努めている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特に継続的な関わりを必要とする利用者は今のところいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り、意向・希望に添うよう努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートに記録し家族からの情報をもっている。職員全体で把握するよう努めている。	○	スタッフ会議で利用者の情報交換をもう少し細かく行っていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケース記録や個人記録などを通じて把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族との話し合いはされている。3ヶ月に1度ケアプランの見直しを行っているとともに日常の話し合いにより作成されている。	○	家族にもう少し現状をくわしく伝え利用者の理解を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと ともに、見直し以前に対応できない変化が 生じた場合は、介護支援専門員の適切な 監理のもとに、本人、家族、必要な関係者 と話し合い、現状に即した新たな計画を作 成している。	変化に対応し、随時見直しを行なっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かし ている。	ケース記録、個人記録申し送りノート、ケアの気づきや 工夫をスタッフ間で共有し、実践している。	○	実践した経過、結果を会議などで 話し合いを行なっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟 な支援をしている。	他機関への連絡など家族との相談に 応じていっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員 やボランティア、警察、消防、文化・教育機 関等と協力しながら支援している。	ボランティア、警察、消防には、協力をお願いしています 民生委員の往来もあり、協力を得やすい状態に ある。	○	ボランティアの方の支援をより深いものに なるよう お願ひしていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他 のケアマネジャーやサービス事業者と話し 合い、他のサービスを利用する為の支援を している。	現在必要とされてる方はいませんが、必要性が ある時は対応を考慮している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護 や総合的かつ長期的なケアマネジメント等 について、地域包括支援センターと協働し ている。	必要に応じて連絡をとり行なわれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医に受診できるよう支援している協力医療機関との連携を確保し緊急時にも対応できるよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門医にかかり、担当医を決め適切な治療を受け、相談しやすい状況に努めている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を確保している為、日常の健康管理や医療の事を相談しながら支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	情報交換を行い、又面会をして状態説明を受けられるよう備え、連携している。	○	医療機関との連携を強化していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	家族、医師との話し合い、方針を共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度、終末期に対応すべく、職員で話し合っている。	○	職員会議などで勉強し、よりよい準備体制ができるよう検討している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
○住替え時の協働によるダメージの防止 49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	情報交換はもとより、電話連絡、直接申し送りをするケースもあり、ダメージを防ぐことに努めている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
○プライバシーの確保の徹底 50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	職員は利用者のプライバシーを損ねる事なく声かけや対応を心がけている。個人情報の取扱いにも配慮し適切な対応をしている。		
○利用者の希望の表出や自己決定の支援 51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	一人の対話から、思いや希望を引き出せるよう支援している。		
○日々のその人らしい暮らし 52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースを大切に対応し、外出や室内の活動を行なっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
○身だしなみやおしゃれの支援 53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容はホームに出張して頂き気軽に対応できる様に努めている。		
○食事を楽しむことのできる支援 54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	下準備や片付けを行なっている、また好みに合ったものを提供できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物、おやつ等個人の好みと合わせ日常的に楽しめるよう支援している。お酒は現在希望する方はいない。たばこは医師の指導もあり吸われていない。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄のパターンを把握し、排泄の失敗をする前にさりげなく誘導し、気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	自ら尿意を感じる方については排泄を訴える事が出来る様支援している
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日は決めているが一人一人の希望やタイミングに合わせる事は出来ていない。	○	希望に応じて対応を考えていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人一人の生活習慣やその状況に応じて休息したり眠れるよう支援をしている 医師との情報交換をして対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や生活歴、日常から好んで行っていた事などを支援したり、気持ちよく外出するように努めている。		音楽を聞いたり、カラオケをしたりと楽しく日常を過ごす様支援している。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理ができる方は本人が持ち、買い物の希望があれば職員と共に外出し買物支援を行っている。他の方についてはお金を使用する事が少ないので増やしたい。	○	買物に出かける機会を増やす。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
○日常的な外出支援 61 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事などとドライブ・外食を支援している。 誕生日など個人の記念日に職員と一緒に買物などに外出するように支援している。		
○普段行けない場所への外出支援 62 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行事などで普段行けない所へ出かける機会をつくるようにしている。遠方へ旅行などはされていない家族の方との外出は行なわれている。		
○電話や手紙の支援 63 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に応じて対応している。		
○家族や馴染みの人の訪問支援 64 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問され各室で過ごされたり、リビングなどで過ごされたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
○身体拘束をしないケアの実践 65 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の具体的な行為を職員が理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
○鍵をかけないケアの実践 66 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠しないように心掛け、職員が利用者一人一人の居場所を常に把握するように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
○利用者の安全確認 67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在様子を把握するように努めている。又職員は互いに声を掛け合うように心がけている。		
○注意の必要な物品の保管・管理 68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	基本的には職員が気づきを行っている。 使用時には職員が貯り危険を防ぐ取り組みをしている。		
○事故防止のための取り組み 69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいる。又職員が居室を訪室したり見守りを重視している。		
○急変や事故発生時の備え 70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防による救急講習に参加している。 定期的には行なわれていない。	○	定期的に学ぶ機会を作っていきたい。
○災害対策 71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている。	年2回防災訓練を実施している。またお便りで実施内容を地域の方々に伝えるように配慮している。		
○リスク対応に関する家族との話し合い 72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	医師のコメントを考慮しながら本人に必要な以上の負担がおよばぬように家族との協議を重ねあくまでも本人主体で対応している。	○	情報を常に家族に明示し共有する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	口頭伝達、ケース記録を職員全員で共有理解し 早期発見、受診等の対応を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの説明をよく理解し薬の目的や副作用等説明書をよく読み、更に上司の意見を求め正確な与薬に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の摂取量を記録し管理している。 食物のバランスを考え、運動もうながしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアは声掛けを行ない全員で取り組んでいる。又その支援をしている。 就寝時には、義歯をあずかり洗浄を行なっている。	○	本人の習慣となっている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養状態は申し送り等で確認しあい、水分摂取などもケース記録に残している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、申し送り、またミーティングなどを通じて理解を深め予防に努めている。	○	職員も、グローブ、マスクなどを使用し取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具の消毒は常に行なっている。 食材の日付調理に関し火の通りなどの確認は必ずしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	安心して出入りが出来るように清掃もオーに心がけている。花を置くなどして、不快感のないように工夫している。	○	常に明るく整頓を心がけている。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を表すディスプレイなど 季節感の意識が高まるように努めている。	○	季節の変化を目で楽しめるように飾りつけも積極的に取り組んでいる。
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者、お一人お一人が自己の思いの中でここよく過ごされるように、リビング、食堂を使い分けている。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の趣味嗜好を尊重している 新しい物品の購入を希望される場合にはご家族と相談し購入に努めている		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室の換気、明るさに気を配り、窓の開閉換気、寝具類の洗濯などに気を配り、日々調整している。	○	掃除のチェックシートを活用し、又申し送り等で居室の状況を確認している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
○身体機能を活かした安全な環境づくり 85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	通路の安全を確保している。シルバーカーや車椅子も活用している為、テーブル椅子のまわりは特に歩行のスペースの確保に努めている。	○	個々の身体機能に順じた運動空間の確保にも努めたい。
○わかる力を活かした環境づくり 86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各自の理解力を活かして、声かけや各室の場所に名前をかけるなど自立して暮らせるように配慮している。		
○建物の外回りや空間の活用 87 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	野菜や花の手入れを行ない天気の良い日などは、ベランダでお茶を飲まれ楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2/3くらい ☐ ③ 利用者の1/3くらい ☐ ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ① 毎日ある ☒ ② 数日に1回程度ある ☐ ③ たまにある ☐ ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2/3くらい ☐ ③ 利用者の1/3くらい ☐ ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2/3くらい ☐ ③ 利用者の1/3くらい ☐ ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2/3くらい ☒ ③ 利用者の1/3くらい ☐ ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☒ ① ほぼ全ての利用者 ☐ ② 利用者の2/3くらい ☐ ③ 利用者の1/3くらい ☐ ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ① ほぼ全ての利用者 ☒ ② 利用者の2/3くらい ☐ ③ 利用者の1/3くらい ☐ ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	☒ ① ほぼ全ての家族 ☐ ② 家族の2/3くらい ☐ ③ 家族の1/3くらい ☐ ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98 職員は、生き生きと働いている	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

残された大切な日々を 安心して 穏やかに暮らしていけるように 微力ながら、スタッフ一同 生活支援に努めていきたいと考えています。